

## 断捨離

野崎 留美



利用者さん宅を訪問すると、よく「断捨離せないかん！」と話されます。

Kさんの介護をされているご主人が「子どもたちに迷惑をかけてはいけない。」と思い、屋根裏の片づけをされたそうです。その際、35年前のクリスマスツリーが出てきたため、それを家に飾られました。私は、Kさんを車椅子に移乗し、飾ってあるところまでお連れしました。喋ることはできません

が、ご主人が「これ知ってる？」と問いかけると、普段はほとんど閉じている眼が大きく開き、小さくうなずいてくれました。私にとって、本当にうれしかった瞬間でした。

一方、Jさん夫婦のご主人は、要支援から転倒の回数が多くなったため、要介護となり、介護用のベッドをレンタルすることになりました。

しかし、「〇〇家具で注文して作った畳のベッドを捨てるのは嫌です。」と言われましたが、ご本人に納得してもらい、介護用ベッドに交換しました。けれど、一晩寝て元の畳のベッドにもどりました。

転倒が多くなり手すりが必要ですが、「景観が悪くなる。」と言われ、最小限にしました。今後は、私には転倒したことを言わないそうです。「ケアマネ・通所リハビリに転倒したことが分かってしまうから。」とおっしゃられていました。

ご本人が不安なく安心・安全に移動ができ、海が見えるリビングで美味しいコーヒーを飲んで穏やかに過ごしてほしいのですが、しばらくは、静かに見守ろうと思います。

人生経験とともに、手に入れた物や思いも増えます。若い頃より身体的にも衰えが出てくるシニア世代は転倒などの危険を回避するためにも適度な量、自分に必要なモノだけに絞りたいものです。

